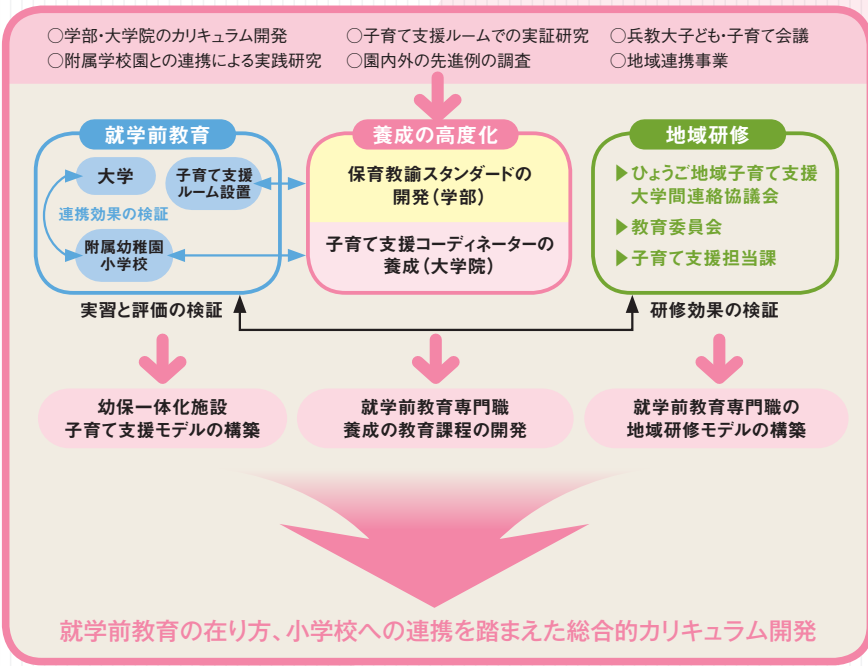


【図1】就学前教育カリキュラム研究開発の構造図



「一元化は無理でも、施設機能が一体化に向かうのであれば、このことをきっかけに保育内容の均質化と未来をつくる子どもに掛ける投資にも期待でき、親と保育者、そして地域の大人による社会での子育てにつながつていくことが期待されます。」

そのような国の方策の中、兵庫教育大学では、幼年教育コースを中心に、小学校に入学するまでの0〜5歳児を対象にした教育の充実を図

る研究を進めています。まず、幼稚園教諭・保育士(合わせて「保育教諭」を養成する立場として、「保育教諭スタンダード」の策定や大学院での「子育て支援コーディネーター」の資格取得を実施しています。いずれも国立大学初の、兵庫教育大学独自のものです。

これらを研究の柱として、26年度からは文部科学省特別経費プロジェクト(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実に採択された事業「大学の機能強化としての就学前教育専門職養成の高度化と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発」を展開しています【図1】。一連のプロジェクトを「ブレ研」(就学前教育IIプレスクールの研究)と呼んでおり、その一環として子育て支援ルーム「GENKi」の設置と、地域に貢献する形での研修を行っています。

GENKiの名称はGeneration(世代)・Education(教育)・Nursery(保育)・Kids(子ども)というキーワードの頭文字で、昨年10月、加東キャンパス山国地区にある「やまくにプラザ」内に開設しました。開所以来、27(2015)年4月末で200人の登録者を数えるまでになっています【図2、3】。子どもの年

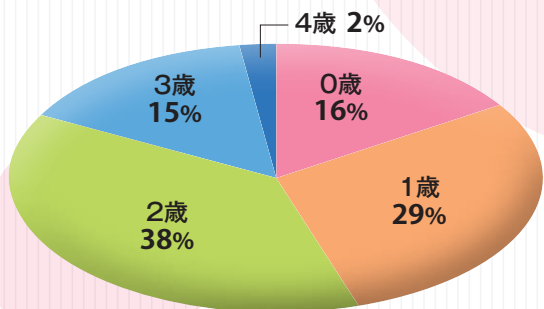
【図2】GENKiの登録者数の推移



齢は0〜2歳が8割以上を占め、毎回、新しい親子が訪れています。GENKiでは、幼保一体化として、附属幼稚園との連携も強化しています。0〜2歳は親子で来て、ゆったりと時間をかけて良い親子関係を築くことを第1の目的としています。そして、3歳からは幼稚園への入園で友達との関わりの中に入っていきます。また、孤立しがちな親同士や、学生、祖父母世代といった多世代の交流の場にもなります。このように、子どもをめぐってさまざまな世代の人たちが継続して関わることで、お互いに育ち育てられ、大学や附属施設を中心とした地域「コミュニティ」が形成されることを願っています。

※合計特殊出生率:一人の女性が一生の間に生むとしたときの子どもの数(参考:厚生労働省ホームページ)

【図3】年齢別の利用割合(4月末日までの年齢)





わが国では少子化が急速に進んでおり、平成26(2014)

年の合計特殊出生率は前年を下回る1.42となっています。そこで、社会全体で子育てを支える仕組みとして、24(2012)年に「子ども子育て支援法」「認定こども園法の一部を改正する法律」「関係法律の整備等に関する法律(児童福祉法等の改正)」が制定されました。この内容は、質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保策の展開、地

域における子ども・子育て支援の充実を図るものです。そこで、従来の子育て支援施策「次世代育成支援行動計画」も踏まえ、27(2015)年3月までに地方自治体を中心に地域の子育て支援を充実する計画が急ピッチで作られました。

わが国ではこれまで健やかな子どもの育ちを促すという就学前教育の理念は同じものでありながら、幼稚園と保育所は明治初年から二元化が続いていました。しかし現在、北欧やニュージーランド等の幼児教育先進国は幼保一元化が実施されています。

かつて、養護と教育の融合を考慮しながら、長い目で一人一人の子ども

の発達をしっかりと見て保育するという、子どもの健やかな発達を促すことに着目されていることが挙げられます。一方、18(2006)年には、ヘックマンをはじめとする経済学者らが社会投資的な観点から、乳幼児期への投資効率が高いことを指摘しました。この結果、OECD(経済協力開発機構)で就学前教育について議論され、各国の政策に影響を与えています。また、就学前教育の質が貧困と関連していることも示されています。

その理由として、乳幼児期の遊びを通して形成された情緒の安定、認知能力、社会性は学びの基礎であること、また、その能力の獲得は親の就労形態によつて区別されるものではなく、乳幼児は等しく同じ保育を受ける権利があることが挙げられます。さらに、少子化の時代だからこそ、異年齢の中での関わりは成長にとつてとても大切なことです。した

教育最前線

これらのことから、わが国における新制度の実施は、画期的な一歩であるといえます。同時に、幼保一体化も含めた0歳からの「遊びを通じた学び」という保育の質の具体的な内容へのアプローチが一層求められます。現在、わが国における各省庁の

就学前教育

就学前の乳幼児の教育・保育の質の向上のため、平成27(2015)年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。子育ての社会化として、認定こども園を含めた子育て支援のさらなる充実が進んでいます。兵庫教育大学でも子育て支援ルーム「GENKI」を開設し、学生の専門職性と地域の子育て支援事業の充実を目指して取り組んでいます。



なすかわともこ
名須川知子

副理事(就学前教育・研究推進担当)
幼年教育コース教授
就学前教育カリキュラム研究開発室室長

最近は口コミなどで利用者がどんどん増え、1日に20~25組ほどが訪れます。子どもの発達段階を考えた工夫がいっぱいなので、保護者の皆さんにあらためてここの良さを説明しなくても、施設にあるものから感じ取ってもらえているからだと思います。また、ボランティアとして運営に携わっている学生たちには、ここでたくさんの経験を積み重ねて現場で生かしてほしいです。

いその くみこ
磯野久美子

子育てアドバイザー
就学前教育カリキュラム研究開発室特命助教

専門スタッフ



たかはたよしみ
高畑芳美

子育てアドバイザー
臨床発達心理士
就学前教育カリキュラム研究開発室特命助教

もともと幼稚園の教員として発達障害のお子さんたちへの指導を担当していました。ここでは個別に時間を設けて相談に応じることもあります。お母さんたちが構えなくてもいいような、さりげない「横並びの子育て相談」を普段から心掛けています。ささいなことかもしれないけれど保護者にとっては大事件というような悩みを聞いて、一緒に解決していければと思っています。

げんきルーム

ピンクが基調の優しい色合いの室内に、子どもたちが自由に遊べるこだわりのおもちゃがいっぱい。それぞれ、発達段階に応じた動線を考えて配置しています。



◎配置の工夫

出入り口付近では人の往来が気になって遊びに集中できずに走り回ったりすることがあるため、入室してすぐ目につく所には誰でも遊べるボールプールを、集中して遊べるまごとセットなどは奥の方に置いています。2歳以下の子向けには、おむつを替えやすいよう、ロッカーに近い場所に親子で遊べるスペースを確保しています。

◎スタッフ厳選のおもちゃ

子どもたちが何度も繰り返し遊び込むことができるような、年齢に合わせた良質なおもちゃを置いています。特に、木のおもちゃは少々乱暴に扱っても壊れず、手触りもいいのでお勧めです。角がなく、たとえ投げたりしても大きなけがにならないうような大きさのものを選んでいきます。

(イチオシのおもちゃ)

ジャンピングカートレイン

ベック社

偶然に置いていただけでも木の車がコトコトと音を立てながら落ちていくので0歳児も遊べます。木製で角が丸く処理されているので安全です。



フェルトの魚

切り込みを入れボタンを付けただけの簡単な手作りおもちゃ。どんどんつけていくことが子どもには楽しく、遊ぶうちに手先が器用になります。



学生の手作りおもちゃ

さまざまな音が鳴るフェルトの積み木、魚釣りのセットなどは、学生たちが授業の一環で作成。完成後も子どもたちが遊ぶ様子を観察し、もっと喜んでもらえるようにと工夫を重ねたもので、保護者からも大好評です。



楽器コーナー

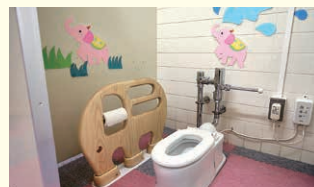


お絵かきコーナー

※げんきルームの遊具のレイアウトは変更することがあります

トイレ

子ども用トイレに温座を導入。トイレトレーニング中の子も、「温かい」と面白がって座っているうちに、パンツを脱いでできるようになります。成功体験が子どもの自信につながり、外出先でトイレに行けるようになったという子も。



インフォメーション

▶開室日時/月曜、火曜、木曜(祝休日を除く)9時~12時 ▶対象/主に0歳から未就園の乳幼児と保護者
▶問い合わせ/加東市山国2007-109 ☎0795-40-2231

砂場

室内から直接出られるウッドデッキは、親子で安心して遊べるよう、衛生面に配慮した砂場があります。ここで砂場デビューした子どもたちも増えてきました。



子育て支援ルーム「GENKi」

教育最前線

広い室内で親子がゆったりと過ごしながらかつ仲間づくりや子育ての情報交換などをできる場所として、週3日、乳幼児とその保護者に無料で開放している子育て支援ルーム「GENKi」。理論と実践の融合を目指し、室内は細部にわたってさまざまな工夫を施しています。保育経験のある2人の専門スタッフがこだわりの一部を紹介します。

施設紹介

スタッフルーム

打ち合わせをするスペースやボランティアスタッフの荷物置き場などとして活用しています。

ボランティアの学生の声

卒業研究で子育て支援を取り上げたいと思い、4月から週1回のペースで通っています。保育士を目指しており、子どもと関わる機会を持てるのはありがたいですね。普段、学校では体験できないことを経験させてもらっています。特に、現場経験が豊富な先生方の子どもとの接し方は、見ていても勉強になります。

ちひら ゆりこ
知平由梨子さん
学校教育学部
幼年教育系コース4年



利用者の声



ほっとルーム



黄色とオレンジを基調にした親子のための休養室で、くつろげるようにソファや授乳用のついたてを用意。お薦めの絵本をたくさん用意し、座って読み聞かせできるようにカーベットを敷いています。

受付

受付で渡す名札は、ひと目で年齢が分かるように色分け。保護者がわが子より少し先の成長を確認できたり、同じ年齢の子を持つ親同士が会話するきっかけになったりします。



ここに通うようになって、娘が前より社会的になりました。人見知りや場所見知りをしなくなり、先生という存在の認識もできたようです。おもちゃが増えたり季節ごとに飾り付けが変わったりと、子どもが飽きないように工夫されているのもいいですね。

家から近く、オープン初日から通っています。ここにあるのは安全なものばかりなので、安心して遊ばせることができ助かっています。頭や体を使ういろいろなおもちゃが置いてあり、それらで遊んでいる様子を見て、娘は体を動かすのが好きなんだと発見できました。